

第1節 人権を尊重し、人との出会いを大切にすまち

3 多文化共生社会

～行政レベル、市民レベルともに世界に開かれたまち

<A 基本計画の目標>

国籍や文化の違いを認め合い、外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを進めます。
市民・市民団体の国際交流・協力活動を支援します。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	35.4 %	60.4 %	61.8 %	53.2 %	62.6 %	↗

<C 目標達成に向けた24年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【経営企画部】	自己評価
市内を中心に国際交流・国際協力活動を行っている市民団体と「国際交流フェスティバル」を開催し、市及び団体相互の情報交換を行い連携を強化するほか、各団体の活動状況の周知を図りました。 また、市民等を対象に開催した国際理解講座では、災害時に外国籍市民が直面する課題と支援のあり方について理解を深める機会を設けました。	○
外国籍市民の意志疎通の支援を目的とした通訳ボランティアの派遣については、学校訪問及び文化交流事業への派遣を行い、国際交流活動を支援しました。 平成24年度市民通訳ボランティア登録者数は平成23年度と同数であり、当該事業について、より広く周知を図る方策を検討していきます。	○

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【経営企画部】

・フェスティバル等の実施は民間主導へと移行させていくべきである。



フェスティバルの開催は鎌倉市国際交流・協力団体の中から実行委員会を立ち上げて、鎌倉市と共催で行っていますが、現状、団体相互のネットワーク等への支援が必要となっています。将来的には市が事務局をすることなく行えるよう取り組んでいきます。

・通訳ボランティアは、派遣の実績はなく問い合わせ2件のみであった。通訳ボランティア事業の積極的な活用の方が見えてこず、意義と内容の見直しを図るべきである。県では通訳ボランティアが不足しているため最近も募集があった。県との協働も願います。

平成24年度の派遣実績は1件(1人/2日間)で、その他翻訳の依頼が1件ありましたが、ボランティアとの合意には至りませんでした。県の通訳ボランティアとの協働としては、市の通訳ボランティアへ県の制度について周知を図ります。

・多文化に触れる点で市内青少年と外国籍市民の交流などがあればと思う。その際に通訳ボランティアに参加してもらって交流が深まる。

年に1回開催している「かまくら交流フェスティバル」へ学生や青少年、通訳ボランティアなど幅広い年代の方に参加していただき、交流の場となるように情報発信の充実を図ります。

・外国籍住民にとって暮らしやすいまちとは具体的にどう言うものか。意識調査で意見聴取を行ったとのことであるが、防災以外にも関心の高い課題があると思われる。意識調査の結果がどこに反映されるのか明確になっておらず、平成24年度には意識調査の結果、どのような問題が発見され、どのような対策を実施したかが重要となる。

平成23年度に実施したアンケートで寄せられた災害時の対応・防災対策への意見・要望等は、その対応について防災の所管課へ繋いでいます。その他、生涯学習や日本人とのコミュニケーションを希望されることについては、鎌倉市国際交流・協力団体連絡会へ働きかける等の国際交流事業を推進していきます。

<E 24年度未達成事業の課題・問題点など>

【経営企画部】

国際交流・協力団体相互のネットワークの強化やさらなる国際交流・協力活動の促進を目的とした「活動拠点の整備」が未解決となっています。

※未達成の理由<支障となった理由>

市及び国際交流・協力団体間での情報交換の場の設定、調整等が十分の実施できなかったことによるものです。

<F 今後の展開(取組方針)>

【経営企画部】

国際交流・協力活動のさらなる推進を図るため、「国際交流フェスティバル」等を通して、市及び国際交流・協力団体との協力関係を維持するとともに、団体相互のネットワークを強化し、活動拠点の整備をめざします。

国際理解講座や通訳ボランティアの有効活用等の支援施策の充実により市民及び外国籍市民の相互理解を図るとともに、外国籍市民へのアンケートを基に外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを推進していきます。

都市交流については、行政主導だけでなく市民レベルの自主的な交流を促進・支援することにより、より多くの都市との交流を促進していきます。

<G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	H22年度 目標値	H27年度 目標値
通訳ボランティアの 派遣回数(+)	外国語通訳ボランティアの 年間派遣回数	4 件	0 件	2 件	0 件	1 件	5 件	6 件
通訳ボランティアの 登録者数(+)	外国語通訳ボランティアの 登録者数の合計	138 人	149 人	117 人	126 人	126 人	140 人	143 人
多文化共生社会の 浸透率(+)	日常的に外国人との交流 がある市民の割合	20.1 %	17.9 %	18.2 %	19.6 %	21.2 %	22 %	24 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	3,366千円	2,235千円	773千円	1,361千円	535千円			
	(国・県)	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円			
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円			
	(一般財源)	3,366千円	2,235千円	773千円	1,361千円	535千円			
	人員配置数	1.0人	1.2人	1.0人	1.0人	1.0人			
	人件費 (B)	9,626千円	11,511千円	8,816千円	8,760千円	8,114千円			
	総事業費(A+B)	12,992千円	13,746千円	9,589千円	10,121千円	8,649千円			
	対前年比		105.8%	69.8%	105.5%	85.5%			

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・『国際交流フェスティバル』について、鎌倉市国際交流・協力団体の中から実行委員会を立ち上げて、鎌倉市と共催で行っているなど、市民団体との協働が進み、活発化している。
- ・団体相互のネットワーク等への必要な支援は、市の重要な役割である調整機能を発揮していることであり、十分評価できる。
- ・市民等を対象に国際理解講座を開催し、災害時に外国籍市民が直面する課題と支援のあり方について理解を深める機会を設けた。災害時の外国籍住民の課題、支援の検討などは大切と思われる。
- ・外国籍市民の意志疎通の支援を目的として、通訳ボランティアを派遣するなど、通訳ボランティアの活用方策などに若干の工夫がみられる。
- ・外国籍住民へのアンケートを実施した。



課題・提言

- ・活動拠点の整備は国際交流・協力団体相互のみならず、他の市民活動団体とのネットワークから検討を進めるべきである。
- ・国際交流の活動拠点については具体性がよく分からない。既存の施設を活用し、むしろ内容(ソフトウェア)をよく検討すべきである。
- ・通訳ボランティアの活動報告があり、その件について、“○”と評価しているが、たった1件で“○”という観点の問題である。何が必要とされる施策なのかを根本から見直す必要がある。
- ・外国籍住民の市政への声も、自治会など地域コミュニティへ伝えて、地域で対応していく事も必要である。
- ・昨年度、国際交流団体の協力によって行われた「外国籍市民の意識調査」の結果をどのように分析し、事業に反映していくのが重要である。(せっかく行った調査についてフィードバックが見られない。)
- ・日本は食料を含め多くの資源をほかの国に頼っていかなければならない島国である。今後も資源を頼り続けることができるよう、他の国の文化を身近に知る活動が必要である。
- ・あらゆる機会を通じて、国籍や文化の違いを認め合うことの大切さを啓発する必要がある。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成24年度の取組は、**良好であった。**